

物語りのかたち

現在に映し出す、あったること

いがらしみきお

田村友一郎

山本高之

2015年10月31日(土) - 2016年1月10日(日)

せんだいメディアテーク6階ギャラリー14200

開場時間 11時 - 20時 (11月26日および12月29日から1月3日は休館)

入場料 一般300円(小学生・専門学校生含む)

高校生以下無料(豊齢カード、障害者手帳をお持ちの方は半額)

・・・歴史は「声高に」物語るべきではない。しかし、「声低く」ではあれ物語られない限り「死者の声」はわれわれのもとまで届かないのであり、忘却の海の中に消え去るほかはない。歴史的過去に埋没した死者の声を掘り起こし、それを知覚的現在にまで伝達する「精神のリレー」を可能にするものこそ、語り手と聞き手との批評的共同作業とも言うべき「物語り行為」なのである。

野家啓一『物語の哲学』

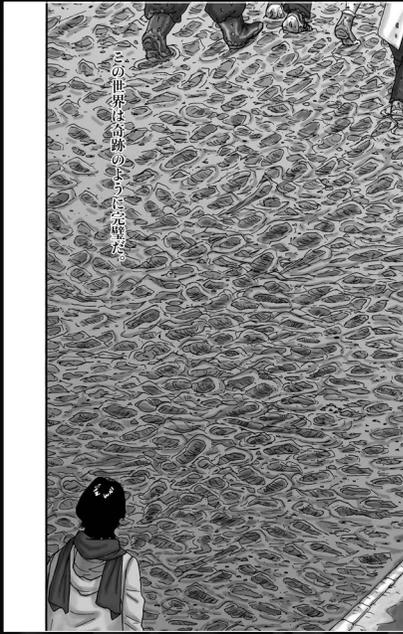
せんだいメディアアテークは、2015年度の自主企画展覧会として、「物語りのかたち―現在いまに映し出す、あったること」を開催します。

震災以降、せんだいメディアアテークでは、1970年代から東北の民話の採訪活動を続ける市民活動団体「みやぎ民話の会」と協働して、伝承の民話の語りを映像などで記録し公開する活動を行ってきました。東北の民話は、厳しい環境のなかで生きる人が、自然への畏敬の念や、人生の悲哀、あるいはおかしみを、豊かな発想によって物語化し語り継いできたものです。この展覧会では、その民話の記録をもとに、美術や漫画の作家が現在の社会に照らして、私たちにとっての民話とはなにかを捉えなおすとともに、かつての暮らしのなかで育まれたユニークな想像力と、物語られることで実感される過去との連続性を表現します。

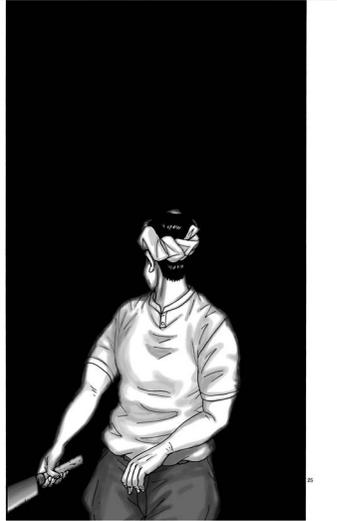
過去の出来事「あったること」を他者に伝え、想起の連鎖を生んでいくものとしての民話とアートの展開にご期待ください。

いがらしみきお

宮城県在住の漫画家で『ぼのぼの』や『I【アイ】』などの作品で注目を集めるいがらしみきお、写真や映像などを用いながら、メディアによって形作られる社会について批評的な表現を行う田村友一郎、子どもたちとの共同制作を通じて、彼らの豊かな感性の視点から、社会の制度や慣習をシニカルに提示する山本高之の3名の作家が、独自の観点から民話を解釈し、形にあらわします。



『I【アイ】第1集』(IKKICOMIX) p.128-p.129 ©いがらしみきお/小学館



『I【アイ】第2集』(IKKICOMIX) p.253 ©いがらしみきお/小学館

1955年宮城県加美町生まれ。仙台市在住。漫画家。工業高校を中退した後、工場や印刷所勤務を経て24歳でデビュー。過激なギャグやシュールな表現の中に、人問味や不条理、生と死などのテーマをにじませる独特の作風を持つ。代表作に『ぼのぼの』(竹書房/第12回講談社漫画賞受賞)、『忍ペンまん丸』(スクウェア・エニックス/第43回小学館漫画賞受賞)など。また『かむろば村へ』(小学館・ビッグコミック)を原作にした映画『ジヌよさらば かむろば村へ』は2015年4月より全国で上映中。最新作『誰でもないところからの眺め』(天田出版)は2015年9月より発売。



『sink 第1巻』p.164 ©いがらしみきお/竹書房



『世話料理雑包丁』(2014)



『T氏の部屋』(2014)

田村友一郎

1977年富山県生まれ。美術作家。日本大学芸術学部写真学科卒。東京藝術大学大学院映像研究科修了。2013年、文化庁新進芸術家海外派遣制度によりベルリン芸術大学、空間実験研究所に在籍。現在、東京藝術大学大学院映像研究科後期博士課程に在籍。2010年にGoogleStreetViewのイメージのみで構成されたロードムービー『NIGHTLESS』で第14回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞を受賞、同作を第3回恵比寿映像祭、第57回オーパーハウゼン国際短編映画祭(ドイツ)、WRO国際メディアアートビエンナーレ2011(ポージランド)など世界各国で上映。近年のおもな展示に、MOMAニューヨーク2012「風が吹けば桶屋が儲かる」(東京都現代美術館)、瀬戸内国際芸術祭2013、メディア・シティ・ソウル2014(韓国)など。映像、インスタレーション、パフォーマンスなど表現形態は多岐に渡る。



『Y市の出来事』(2014)



『NIGHTLESS』(2010)

関連イベント

ギャラリーツアー

メディアアートの学芸スタッフや本展参加作家と一緒に展覧会を観るツアーです。

日程 11月8日(日)、21日(土)、12月6日(日)
時間 14時から16時

人数 各回10名
対象 小学生以上

参加費 展覧会入場料が必要です

参加方法 メールまたはDMにて希望日・氏名・住所・年齢を記載し、前日までに「物語りのかたち展」係までお申し込みください。定員に達した場合は、抽選となります。

mail: office@smt.city.sendai.jp

FAX: 022-713-4482

※申し込みにていただいた個人情報、当該事業の連絡やお知らせのみに使用いたします。

トークセッション1

野家啓一(哲学者)

×

小野和子(民話探訪者)

日時 11月22日(日) 13時から15時

場所 6階ギャラリー4200 ホワイエ

参加費 展覧会入場料が必要です

定員 先着30席

トークセッション2

鷲田清一(書学者・せたいメディアテク館長との対話)

日時 11月29日(日) 14時から15時30分

場所 6階ギャラリー4200 ホワイエ

参加費 展覧会入場料が必要です

定員 先着30席

考えるテーブル

震災以降の地域社会や表現活動について、対話しながら考えていく場です。

山本高之



『TELLING YOUR FUTURE』(2011-)



『FACING THE UNKNOWN』(2012)



『A WEEK OF THE ANIMALS』(2013)



『NEW HELL, WHAT KIND OF HELL WILL WE GO TO?』(2010-)

1974年愛知県生まれ。美術作家。愛知県立芸術大学非常勤講師。愛知教育大学初等教育教員養成課程(芸術系)卒。同大学大学院芸術教育専攻美術分野修了。チェルシー・カレッジ・オブ・アートアンドデザイン、ファイナート修士修了。2014年アジアン・カルチュラル・カウンシルの助成を受け、ニューヨークに滞在。子どもの素直な感性や創造性を通じて、人の意識下に潜む慣習や物事の関係性を表現する。近年のおもな個展に2011年「Now Pakao-New Hell」(Max Artfesta、クローアチア)、2012、2013年「Facing the Unknown」(MUZZI、ケンシタキギャラリー)など。近年のおもなグループ展に、あいちトリエンナーレ2010、2012年「Phantoms of Asia: Contemporary Awakens the Past」(Asian Art Museum、アメリカ)、2014年「ゴッホ・ピトゥアインズ展:こどもを通して見る世界」(森美術館)がある。

てつがくカフェ
「物語り〜いま、(象る)営みを
問いなおす」

私たちが通常当たり前だと思っている事柄からいったん身を引き離し、「そもそもそれって何なのか」といった問いを投げかけ、「対話」をとおして自分自身の考えを運しくすることの難しさや楽しさを体験していただくこととするものです。

今回のテーマは「物語り〜いま、(象る)営みを問いなおす」。(象る)は語りの語源でもあります。震災以降の状況や時間の流れを、(象る)営みをとおして(物語り)を切り口に問いなおします。

日時 12月13日(日) 15時から17時

場所 6階ギャラリー4200 ホワイエ

協働 てつがくカフェ@せんだい

ファシリテーター 西村高宏

ファシリテーションスタッフ 近田真美子

(てつがくカフェ@せんだい)

参加無料、申込不要、直接会場へ

民話ゆうわ座「笠地蔵」

「みやぎ民話の会」が40年にわたって記録してきた、宮城県を中心とする民話語りの映像・音声も、誰もが活かせる共有財産として、未来へ受け渡していこうとする取り組みです。東北の伝承の語り手による民話語りの映像や音声を入口に、先祖が語り継いできた民話の深い森に、一歩足を踏み入れてみませんか。

今回は、絵本に描かれた「笠地蔵」と東北の伝承の語り手により語られた「笠地蔵」を聞き比べ、物語に込められた民話世界の根っこにせまります。

日時 12月27日(日) 13時30分から16時30分

場所 1階オープンスタジオ

協働 みやぎ民話の会

「民話声の図書室」プロジェクトチーム

参加無料、申込不要、直接会場へ

対話の可能性

人と人のあいだには、性と性のあいだには、人と人以外の生きもののあいだには、どれほど声を、身ぶりを尽くしても、伝わらないことがある。思いとは違うことが伝わってしまうこともある。(対話)は、そのように共通の足場をもたない者のあいだで、たがいに「分かりあおう」として試みられる。そのとき、理解しあえるはずだという前提に立てば、理解しえずに終わってしまったとき、「ともにいられる」場所は閉じられる。けれども、理解しえなくてあたりまえだという前提に立てば、「ともにいられる」場所はずっと「開かれる」。

対話は、他人と同じ考え、同じ気持ちになるために試みられるのではない。語りあえば語りあうほど他人と自分との違いがより微細に分かるようになること、それが対話だ。「分かりあえない」「伝わらない」という戸惑いや痛みから出発すること、それは、不可解なものに身を聞くことなのだ。

「何かを学びましたな。それは最初はいつも、何かを失ったような気がするものです」(バーナード・ショー)。

何かを失ったような気になるのは、対話の功績である。他者をまなざすコンテキストが対話のなかで広がったからだ。対話は、他者へのわたしのまなざし、ひいてはわたしのわたし自身へのまなざしを開いてくれる。

対話は、生きた人や生きもののあいだで試みられるだけではない。あの大震災の後、わたしたちが対話をもっと強く願ったのは、震災で亡くした家族や友や動物たち、さらには、ついに「損なわれた自然」をわたしたちが手渡すほかなくなくなってしまった未来の世代である。そういう他者たちもまた、不在の、しかし確かな、対話の相手方としてある。

せんだいメディアテーク館長 鷲田清一

お問い合わせ

せんだいメディアテーク 企画・活動支援室
〒980-0821 宮城県仙台市青葉区春日町2-1
電話 022-713-4483
FAX 022-713-4482
Email office@smt.city.sendai.jp

主催

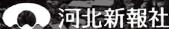
公益財団法人 仙台市市民文化事業団 (もとがしメディアテーク)

助成

一般財団法人 地域創造 公益財団法人 花王 芸術・科学財団

後援

 仙台放送局
  東北放送
  仙台放送

 宮ぎテレビ
  KHB 東日本放送
  河北新報社

朝日新聞仙台総局 産経新聞社東北総局 読売新聞東北総局

毎日新聞仙台支局  仙台リビング新聞社

S-style エフエム仙台 

協力 | みやぎ民話の会

デザイン | 有佐祐樹 (marq mew)

この用紙はリサイクルできます

せんだいメディアテークへのアクセス

- 地下鉄 仙台駅から泉中央行きで3分、勾当台公園駅下車。
「公園2」出口から徒歩6分。
- バス 仙台市営バス仙台駅前-29番(庄内銀行前)のりばから
「定禅寺通市役所前」経由交通局大学病院」行きで約10分、
メディアテーク前下車。
- 徒歩 仙台駅より約20分。
- タクシー 仙台駅西口タクシー乗り場から約7分。
- 自動車 東北自動車道仙台宮城ICから約10分。
仙台空港アクセス鉄道・仙台空港駅から仙台駅まで約25分。



 せんだいメディアテーク
sendai mediatheque